

西神戸須磨軟式少年少女野球連盟
KSBL
大会規定
総合版

2023年1月29日改定

西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 大会規定総合版

本規定は西神戸須磨軟式少年少女野球連盟が神戸市内に居住する小学生を基本に、健全なる体育活動と交歓親善を通じて、広く友情の輪を広げることを目的として、本連盟が開催する各種大会の円滑な運営を図るため、連盟役員をはじめ、関係者及び加盟各チームが相互に確認のうえ、厳守する事項として設ける。

1. 大会参加資格と選手登録

- (1) 連盟規約第6条による神戸市内に居住する小学生を基本として、規約第8条により所定の手続きをもって登録を完了したチームとする。
- (2) チームの登録は、指導者5名以上・選手は9名以上で構成するものとする。チーム選手の背番号は、0番～27番、31番～99番とし(一部のみ主将は10番とする)、指導者の背番号は28番～30番までとし、監督は30番とする。
- (3) 選手登録書は春季大会期間中、必ず持参しなければならない。

【注】選手登録書については、春季大会のみ必要とする。選手登録用紙には必ず「学校行事の日程」「主将にはふりがな」を記入すること。組み合わせ終了後の変更は原則として認めない。選手の追加登録・変更は、開会式までに事務局長に連絡し承認を得ること。大会開催中の場合は、追加登録・変更は出来ない。登録選手は、連盟規約第6条の条件を満たしたものとする。但し、特別な場合は事務局長に届け出て、さらに会長、理事長、事務局長の承認が必要である。よって、選手の追加登録・変更が認められない場合がある。

2. 各大会

- (1) ルール
全神戸軟式少年野球連盟ルール(春季大会のみ)、全軟連競技者必携及び公認野球規則、各大会規定を準用する。
- (2) 使用球
各大会、連盟が指定する大会指定球とする。
- (3) 試合時間【全ての大会共通】
各大会 80分を限度とし新しいイニングには入らない。(C大会は70分)
※リーグ戦の場合、規定回終了又は時間経過にて終了時、同点の場合は引き分けを採用する。

【春季大会決勝トーナメント戦】

決勝トーナメント戦についても6回戦又は80分を限度とし新しいイニングに入らない。

コールドゲームも適用する。

決勝トーナメント戦では、試合時間経過又は6回終了時同点の場合、1イニングのみ選択打順による1アウト満塁方式のタイブレーク方式を採用する。(1イニングのタイブレークでも同点の場合は抽選とする)

【春季大会を除くその他各トーナメント大会】

試合は6回戦とし、80分を超えれば新しいイニングには入らない。(時間制を採用する)

決められた回数、時間が経過して勝敗の決しない場合は、抽選とする。

但し、準決勝戦以上にのみ特別ルールを1イニングのみ適用する(1アウト満塁で打順は、監督の選択とする。それでも、勝敗が決しない場合は、抽選とする。)

ジュニア大会(C大会)は5回戦として70分を超えれば新しいイニングには入らない。(時間制を採用する)トーナメント大会決勝戦のみ特別ルールを1イニングのみ適用する(1アウト満塁で打順は、監督の選択とする。それでも、勝敗が決しない場合は、抽選とする。)

※執行部の判断により大会規定を変更する場合がある。全ての大会はHPにアップされたものを採用する。

(4) コールドゲーム

【春季大会】

①降雨・日没などにより試合が続行できないと審判員が判断した場合は、4回終了後であれば、コールドゲームを適用する。4回を終了していない場合は、再試合とする。日程調整等のため会長又は執行部の判断により継続試合とする場合がある。異議を申し立てることは出来ない。

②得点差によるコールドゲームは、4回終了時10点差、5回以降は7点差をもって成立させる。

【春季大会を除くその他各トーナメント大会】

得点差によるコールドゲームを採用する。3回以上10点差、5回以上7点差とする。

降雨、落雷等により試合を中止した場合、4回終了時で成立する。大会日程等の理由により、再試合とせず大会本部(執行部)の判断により継続試合とする場合がある。異議を申し立てることは出来ない。

※執行部の判断により大会規定を変更する場合がある。全ての大会はHPにアップされたものを採用する。

(5) 防具の使用【全ての大会共通】

①選手の安全確保のため打者・走者・ベースコーチは両耳付のヘルメットを常時着用すること。

②捕手はプロテクター・レガーズ・ヘルメット・ファールカップ・マスク(スロートガード付)を着用すること。(ブルペンで投球練習を受ける時も着用しなければならない)

捕手はベンチを出るときからマスクをつけること。(代わりの捕手も投球をうける場合はマスクを着用しなければならない。)但し、ヘルメットとマスクが一体型の物は、使用を禁止する。

※シートノック時も、捕手はプロテクター・レガーズ・ヘルメットを着用し、ノッカー補助につく選手についてもヘルメットを着用しなければならない。

(6) 投手の練習投球数【全ての大会共通】

投手の投球練習は、初回は7球、投手交代時は5球、2回以降は3球を原則とする。

なお、試合進行の都合により本部又は審判員の判断により練習投球数を減らすことができる。

※全神戸大会では初回、投手交代時は7球、2回以降は3球を原則とする。

(7) ユニホーム・シューズ・手袋・投手のグラブの規格【全ての大会共通】

① 原則としてチームで統一したユニフォームを使用し、背番号をつけること。

② 運動靴、ゴム製ポイントシューズ、セラミックスパイクとし、金具製スパイクの使用は禁ずる。ポイントシューズ・セラミックスパイクは、球場により使用を認めない場合がある。

③ 手袋は全ての色を認める。冬季間、ネックウォーマー(白色は不可)の着用は認める。但し、着用は首回りのみとし、口元へ引き上げることは認めない。バッテリーの着用も不可とする。

④ 投手のグラブの規格については JSBB 競技者必携に準ずる。

(8) バット【全ての大会共通】

軟式用金属バット(一般用も)及び木製の使用を認める。尚、安全性を十分確認したうえで使用すること。

(9) 集合時間【全ての大会共通】

① 試合開始時刻45分前までに球場に集合を完了し、チーム登録用紙・自チーム分を含みメンバー表4通(G7 使用時は5通となる)を持参して監督(代理監督)は、主将(代理主将)と一緒に本部席に届け出ること。

② 試合開始時刻になっても集合しないチーム・指導者のいないチーム・選手が9名そろわないチームは棄権とみなし相手チームの不戦勝とする。※不戦敗(棄権)の場合、スコアは7対0とする。

(10) ベンチ【全ての大会共通】

ベンチは、リーグ戦、決勝トーナメント戦とも、組み合わせ番号の若番が一塁側とする。

【注】但し、グラウンドを提供したチームには、ベンチの選択権がある。

(11) タイム【全ての大会共通】

タイムは45秒以内とする。但し、審判員が認めた場合はこの限りでない。

攻撃側・守備側のタイムは各3回以内とする。(5. 試合運営・その他(10)参照)

尚、試合進行上不必要と思われるタイムは認めない場合がある。

(12) シートノック

【春季大会】

① 試合前のシートノックは4分間とするが、大会運営上短縮、又は認めない場合がある。この場合は、原則として攻守決定の際に知らせる。

② 試合前のシートノッカー・ノッカー補助(外野のみ)は3名までとし28,29,30番の背番号ユニフォームを着用した指導者のみとする。

【春季大会を除くその他各トーナメント大会】

基本シートノックは4分間とする。但し大会によりG7スタジアム神戸及び1・2回戦のノックはなしとする。

(13) ベンチ入り人数【全ての大会共通】

- ① 指導者は監督、スコアラーを含み5名までとする。但し、チーム帽子を着帽した救護係は2名以内であればベンチに入れる。(救護係はベンチ内で選手に指示や声援等をする事はできない)
- ② 選手は登録されている者のみがベンチ入りできる。

(14) 指導者の服装【全ての大会共通】

- ① ユニフォームと、指導者にふさわしいチームで統一された服装とする。
- ② 冬季間ネックウォーマーの着用を認める。但し、着用は首回りのみとし、口元へ引き上げることは認めない。
- ③ 携帯電話は、ベンチ内の持ち込みは禁止する。
- ④ 審判員の服装でのベンチ入りは認めない。
- ⑤ ロングパンツの着用は出来ない。

【全神戸大会のみ】ユニフォーム以外の指導者の服装

ズボン＝紺又は黒系統とし、裾の絞ったズボンは認めない。

上着＝白色のポロシャツまたはTシャツとするがチームで統一したジャンパー等の着用は構わない。

(15) かくし球・変化球【全ての大会共通】

- ① かくし球は認めない。
- ② 変化球は認めない。又、変化球に対して「ボール」を宣告する。【詳細はKSBLホームページを参照】

(16) 抗議権【全ての大会共通】

- ① ストライク・ボール、アウト・セーフの判定に対する抗議は一切認めない。
- ② ルール上の抗議権を有する者は監督(代理監督)のみとし、他の指導者の抗議は一切認めない。
(罰則規定を受けた監督の代理監督には抗議権はない)
- ③ 抗議のあるときはタイムをかけた後、審判員の許可を得たときのみベンチを出ても良いが、許可無くベンチを出てはならない。
- ③ 四氏審判員で討議して裁定を下した後の抗議は一切認めない。

(17) 指導者がベンチを出られるとき【全ての大会共通】

- ① 試合前のシートノック。3名までとする。
(28,29,30番の背番号ユニフォームを着用した指導者のみとする)
【補足】ノッカーとノッカー補助に限る。(試合中の投球練習等の捕球役は認めないが、選手の安全面を考慮し本部が許可する場合がある)
※安全上、ブルペンでの投球練習で指導者の捕球役を認める。(全神戸大会では認められない)

【ブルペンでの投球練習(キャッチボール)について】

- (1)ブルペンでは背番号(28、29、30 番)を着けた指導者が捕手役をしても差し支えない。
(名谷公園グラウンドのブルペンにおいては指導者が捕手役をしてもファウルテリトリーに練習でこぼれたボールに対してのカバーをする補助(選手)を従来通りつけなければならない)
 - (2)ブルペンで選手が捕手役をする場合はレガース、プロテクター、マスク、ヘルメット、ファウルカップを着用しなければならない。(名谷公園グラウンドのブルペンにおいてはファウルテリトリーに練習でこぼれたボールに対してのカバーをする補助(選手)をつけなければならない)
- 尚、上記で全神戸大会では(1)は適用されない。

【注】攻守交代の時の本塁での投球練習について

- [1]本部が認めた場合を除き指導者は捕手役を出来ない。
- [2]捕手役が選手の場合は、マスクを着用しなければ投球練習の投球を受ける事は出来ない。
但し、捕手役の選手がスタンド状態であればマスクを着用せず投手とのキャッチボールに応じる事には差し支えない。

- ②攻撃時の打者への監督指示は、タイムをかけて本塁とベンチの中ほどで指示する。
- ③守備時の投手への監督指示は、ファールライン付近で指示する。
- ④選手交代通告。選手交代はベンチ前で球審に報告するが、一度に3名以上の選手交代をする時は、所定の用紙で報告する。

【補足】喫煙のためベンチを離れると、その試合中再びベンチ入りすることが出来ない。

(18) 審判員と記録係**【全ての大会共通】**

- ①審判は相互審判とし、各チーム審判員2名を選出する。
- ②審判員は、**担当試合 45 分前**までに、本部前に集合、打合せること。
- ③後審判員は、試合終了後すみやかに、本部前に集合、打合せること。
なお、基本的に本部記録員 1 名は当該試合チームより選出する。
- ④各球場で試合を行った実行委員は、試合結果を当日の出来る限り早めに実行(運営)委員長まで連絡する。なお、本部記録員は本部用具を常に携帯すること。
- ⑤勝者チーム(若番チーム)は、球審と二塁の審判員。
敗者チーム(後番チーム)は、一塁と三塁の審判員。

	第①試合目	第②試合目	第③試合目	第④試合目	第⑤試合目
3試合のとき	第③が	第①が	第②が	第④が	第⑤が
4試合のとき	第②が	第①が	第④が	第③が	第⑤が
5試合のとき	第③が	第①が	第②が	第⑤が	第④が

- ⑥都合により代理審判員を立てる時は、事前に球場本部に連絡し了解を得ておくこと。(各チーム共審判員としてふさわしい者を審判員として選出すること)
- ⑦審判員は、シートノック中に両チームの用具を点検し、違反が有れば取り除き本部席で試合終了まで保管管理する。又、指導者に確認させる。
- ⑧実行委員会又は審判部が、審判員を指名し試合を行う場合がある。

⑨試合日程等の理由により、やむを得ず当該チームが審判をして試合を行う場合がある。

(19) 審判員の服装【全ての大会共通】

・上着 リーグ指定の長袖・半袖審判服とする。(単色の紺色、水色ポロシャツ)

【注】但し、全神戸大会のみ単色の紺色ポロシャツと規定されている。

冬季にはチームジャンパーの着用を認める。フード付きとロングコートは認めない。

・ズボン 黒、グレー、紺色とする。

・帽子 審判帽子とする。

・靴 特に指定なし。

【注】変更がある場合は審判部長より通達をする。

(20) 選手の試合中の負傷【全ての大会共通】

① 選手が試合中の負傷等で、治療が長引く場合は、「コーティシーランナー」ルールの適用を認める。

② 守備側チームの選手が負傷した場合は、3分を限度として治療を認め、それ以上は交代を促す。

(21) 給水タイム【全ての大会共通】

試合中、審判員又は本部又は執行部の判断により必要に応じて給水タイムを設ける場合がある。この場合はタイマーを停止させる。

(22) 投手の投球数制限【全ての大会共通】

選手の肘・肩の障害予防として、投手の球数制限を 70 球とする。試合中に 70 球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。**牽制球、投球練習球は投球数には含まない。(ボークにもかかわらず投球したものは投球数に数える)**過失により制限された球数を超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。尚、ペナルティーは無い。【注】参照

※C(4年生)については決勝戦のみ 60 球の投球数制限とする。

【注】投球数のカウントは本部が行う。チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数とに差異があったとしても、本部の投球数カウントが有効である。差異に対しての異議は唱えることは一切出来ない。

但し、下記の時は、チームがカウントしていた、投球数を参考にして本部が投球数を確定する。

① 当該試合で本部での集計が出来ない状態。

② 試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障がおきた場合。

(23) ボーク【全ての大会共通】

A(6年生)、B(5年生)とも1度目からボークを適用する。

※C(4年生)については適用外とするが、ボークによって攻撃側が不利益を被ったと審判員が、判断した場合はノーカウントとして走者を戻し監督と走者に指導する。

4. 大会運営【全ての大会共通】

開会式・閉会式及び試合運営は実行(運営)委員長の指示により各実行委員及び各運営係がその役割を分担する。

- (1) 担当球場で行われる試合の運営及び記録の集計と報告。
- (2) 日程変更及び雨天中止の連絡。
雨天の場合は、実行(運営)委員長から連絡がない場合は試合が行われると考え、必ず球場に集合すること。
- (3) 試合日程と組み合わせの月間予定を作成するが、学校行事を考慮して実行(運営)委員会で調整はする。
但し、学校行事は必ず事前連絡すること。
複数校にて編成されたチームの場合は、
学校行事で選手が抜けた後 10 名以上の選手がいる場合は日程調整の対象としない。
- (4) 連盟が主催する指定された大会の開会式には、「愛の灯募金」に寄付する。
封筒にチーム名と金額を書いて寄付する。
- (5) 試合会場設営のために利用チームは、第一試合の 60 分前に会場に集合する。
又、当日最終試合終了後は、後片付けも行う。
但し、1 会場で 4 試合行う場合は、第一・二試合チームの指導者が設営を行い、
第三・四試合チームの指導者は後片付けを行う。【補足】学校等使用の場合は、担当チーム代表者の指示に従う。
- (6) リーグ戦の順位決定は、以下のとおりとする。【春季大会】
 - ①勝利を 3 点、引分けを 1 点とする勝ち点方式とし、勝ち点の多いチームを上位とする。
 - ②勝ち点と同じ時は、総失点数の少ないチームを上位とする。
 - ③勝ち点及び総失点数が同じ時は、総得点数の多いチームを上位とする。
 - ④①から③までの方法で順位が決定出来ないときは、リーグ戦で直接対戦した勝者チームを上位とする。
 - ⑤①から④までの方法で順位が決定できないときは同位とする。但し、1 位から 3 位までの場合及び春季リーグで全神戸選抜大会出場チームを決定するために必要な場合は決定戦をする場合がある。

【注 1】決定戦チームが 3 チーム以上になった場合は抽選にてトーナメント順を決定し決定戦をする。

【注 2】春季大会の参加チーム数、全神戸選抜大会の出場枠が変化することにより、会長又は執行部の判断によって順位決定の方法を変えることがある。

【2022 年特記事項】

A ブロック(8 チーム)、B ブロック(7チーム)で開催され、A ブロックは上位5チーム、B ブロックは上位4チームの合計9チームが全神戸選抜大会の出場権を得る。但し、全神戸選抜大会の出場枠が10チームとなった場合は、A ブロック6位チームと B ブロック5位チームとのプレーオフ戦を 1 試合行い残りの1枠を決定する。尚この試合は決勝トーナメント戦と同じ規定を適用する。

5. 試合運営・その他

- (1) 本連盟主催の大会における各チーム代表者(理事)は、各チームの試合会場に常駐することを原則とする。
- (2) 本連盟の主催する大会において、各チームの選手管理は、各チームが責任を持って当てること。万一、不測の事故が発生した場合、連盟として応急処置はとるも以後の治療・補償はしない。
- (3) 本連盟の主催する大会において、試合中に球場周辺の物品に損害を与えた場合、当該チーム代表者が弁済交渉に当てること。
- (4) 攻守交代は監督責任で全力疾走させること。
- (5) ファールボールはベンチ側が処理すること。
- (6) 本盗は認めるが、監督申し合わせ事項として事故や怪我には十分に注意すること。
- (7) 試合前後は、両チームの指導者でグラウンド整備を行う。
- (8) 開会式、閉会式にはチーム旗、プラカードは必ず持参しなければならない。
- (9) タイム回数の制限 **【全ての大会共通】**
1試合のタイム数を下記とする。
【守備(監督、選手各)、攻撃時各】3回
【延長】各1回
「守備側タイムの回数制限(作戦タイム)」
 - ①監督がタイムを取ってファールライン付近(ベンチを出る)へ行く守備(監督)タイム回数は、一試合に3回を限度とする。
 - ②内野手(捕手を含む)が 3 人以上マウンドに集まった場合はタイムの守備(選手)タイム回数1回をカウントする。
 - ③延長回(特別延長を含む)に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、2 イニングにつき1回だけタイムを取ることが許される。監督が投手と協議する時は、ファールライン近くまで駆け足を励行する事とする。また、選手への指示についても、同様とする。(簡潔指示の励行)

ただし、同一イニングに①の行為を2回行った場合は、投手を交代させる。
交代した投手が他の守備位置につくことが許される。なお他の守備位置については同一イニングには投手に戻れない。(全神戸大会では適用されない)

「攻撃側タイムの回数制限(作戦タイム)」

- ① 監督がタイムを取ったの打者及び走者に対する指示は、一試合につき3回を限度とする。
- ② 延長回(特別延長を含む)に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、2 イニングに 1 回だけタイムを取ることが許される。

* 但し、守備側、攻撃側に責任がなく試合が中断(審判員が必要と認めるもの、選手の怪我、選手の交代など)した際に、打者及び走者を呼び集めることは回数としてカウントしない。

【注】守備側(攻撃側)がタイムをかけているときに、攻撃側(守備側)の監督が選手を呼び指示した場合は攻撃側(守備側、監督)も回数1回をカウントする。

【注】試合進行上、不必要と思われるタイムは認めない場合がある。(全神戸軟式少年野球連盟大会規定 5 試合要領(16))

(10) ルールの解釈

公認野球規則を解釈するにあたり、アマチュア内規、全軟連競技者必携を用いる。

【注】大会開催中に、大会規定に定められていない事案が発生した場合は、会長又は執行部が裁定を下す。その裁定に対して異議を一切申し立てることは出来ない。

□小学校等狭い球場使用時の安全管理を優先させる。

6. 禁止事項【全ての大会共通】

(1)ハンドマイク・メガホンの使用を禁ずる。

(2)選手・審判員に対する個人攻撃は厳禁する。

自チームの選手に対する罵声、暴言についても厳禁とする。

(3)投手が投球姿勢に入った際には、ベンチから(選手、指導者を問わずグラウンド 内および隣接する応援エリアを含む)投球を妨げるような声援は禁止する。

(4)応援者(保護者等)による選手・審判員に対するヤジ・非難・指示等を厳禁する。

万一上記のことが発生した場合は、当該チーム代表者・監督の責任において直ちに注意し止めさせなければならない。

(5)本塁打打者と他者とのタッチは禁止する。

本塁打を打った打者の派手なガッツポーズや当該打者をベンチ外に出て出迎える行為を禁止する。

(6)安全上、ノック中、投球練習中等ベンチ前での素振りは禁止する。

(7)サングラスの使用について、マナーとして試合中に帽子のひさしにのせたりするのは禁止する。さらに試合挨拶の時は外さなければならない。(医療用を除く)
尚、全神戸大会では着用を本部に届けなければならない。

7. 罰則規定

【春季大会】

参加チームが、次の各号のいずれかに該当するときは、試合参加は認めるも、監督はリーグ戦の場合は1試合、決勝トーナメント戦は大会期間中ベンチ入り出来ず、本部席にて待機させる。抗議や異議は一切認めない。

- ①開会式当日に、プラカード及びチーム旗を持参しなかった場合。
- ②試合当日に選手登録書を忘れた場合。
- ③集合時間に遅刻した場合。
- ④担当審判員2名が集合時間に遅刻、不履行の場合(担当審判員が所属しているチームに対し)

【注】③④について、交通事情等により遅刻が発生する場合は、必ず試合会場に連絡しなければならない。

【全ての大会共通】

(1) 参加チームが、次の各号のいずれかに該当するときは、代表理事会又は理事会で協議し、その指導者及びチームの処分を決定する。

- ①登録されていない指導者・選手を出場させた場合。
- ②本連盟が認めていない他の団体・連盟が主催する大会に参加させ本大会に支障を与えた場合。
- ③試合中に試合を放棄した場合。
- ④その他大会規定に違反・抵触した場合及び著しく大会の運営を阻害したと認められる場合。

(2) 執行部は、代表理事会又は理事会を開催して当該者を交えて事情を聴取し、その処分を決定する。決定された処分に対して異議を申し立てることは出来ない。上記以外で罰則規定に定められていない事項についても同じである。

☆この大会規定は総合版であり、抜粋されている部分がある。大会ごとに更新される各オープン大会規定を参照し必ず準用すること。さらに、全神戸大会では全神戸軟式少年野球連盟 大会規定を参照し必ず準用すること。

本大会規定の改正は、代表理事会又は理事会で行う。

2023年1月29日 改正